

ご挨拶

未来に託せる 持続的なまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。令和四年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症対策で不安と我慢の年となりました。今もまだまだ油断はできませんが、比較的穏やかな新年をお迎えにられたことと拝察いたします。

現在のコロナ禍において、ワクチン接種は日常を取り戻すための大きな希望です。今後皆さまができるだけ速やかに、安心してコロナウイルスワクチン接種をしていただけるよう全力を尽くしてまいります。

今秋には、JR只見線が十一年ぶりに全線再開通する見込みとの発表や、只見高校が今春の選抜高校野球大会21世紀枠で東北ブロック代表校に選出されるなど、初春の只見町は明るい話題で新年を迎えることができました。

本年は、これらの明るい話題に支えられながら、未来に託せる持続的なまちづくりを具体的に進めてまいりたいと考えています。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

まずは、JR只見線の全線再開通に合わせ只見駅前の賑わい創出事業として、お迎えの体制を整えてまいります。

これには、第三セクターの体制強化が伴わなければなりません。人材の確保とともに、地域で事業を営んでお

れる方々との連携づくりにも努めてまいります。

そのうえで、国道289号八十里越の全線開通を見据えた、更なる受け入れ態勢充実を目指し、季の郷湯らりの施設等リニューアル準備に着手してまいります。

次に、小中学生が中心となって進めているSDGsの精神を我々も実践するため「薪ボイラー導入事業」に着手します。山に囲まれた只見町として、地域にある山村資源を活用し、地域内経済の循環に寄与するシステムづくりに取り組んでまいります。

これらが順調に展開していけば温泉施設や老人福祉施設、更には各家庭にも普及できる可能性があります。

産業面では、米価の下落・資材や燃料等の高騰による経営環境の悪化が引き続き懸念されておりますが、梁取及び只見地区のほ場整備事業に取り組むとともに、生産基盤や環境基盤の補助を含む支援対策も関係者の声を聴きながら講じてまいります。

次に道路や橋梁等の維持管理が年々困難な状況になってくるのが懸念されるため、国や県及び建設会社等と町も一緒になって、少子高齢化における公共インフラの在り方を研究してまいります。

診療所の医師対策としては常勤医師の確保に向けて引き続き粘り強く要望してまいるとともに、子どもの健やかな成長を支援する事業に積極的に取り

組んでまいります。

更に、高齢化の進行に伴って多様化・複雑化する高齢者福祉ニーズに対応し、身近で適切なサービスを提供していく必要があることから、地域福祉の中核である社会福祉協議会の特性を生かし、相談からサービス提供までのワンストップ化を目指し、地域包括支援センター業務を委託することを検討してまいります。

また、今年7月には「ただみ・モノとくらしのミュージアム(大倉地区)」が会津只見考古館と繋がってオープンする予定です。国が進めている文化観光推進の政策にも叶うものであり、旧長谷部家や旧五十嵐家、そして河井継之助記念館やブナセンター、ふるさと館田子倉とも連携を図った「文化観光」づくりに取り組んでまいります。

振興センターは地区センターから名称を改め、長年地域づくり委員会・自治振興会並びに地域住民の皆様のお力で事業に取り組んでまいりました。本年は今までどおり取り組んでまいりますが、同時に令和五年度からの在り方を考えるため、今の地域の状況を改めて見直し、社会教育と社会福祉という考え方を基本に据えて各方面からのご意見をいただきながら、検討してまいります。

念頭にあたり所信の一端を申し上げます。心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年の



只見町議会議長 大塚 純一郎

より身近で開かれた 議会を目指して

明けましておめでとうございます。只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に深いご理解とご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年を顧みますと、国内外ともに大きな出来事があった1年でした。

特に、全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、経済活動をはじめ様々な分野に大きな打撃を与えました。国内では「緊急事態宣言」が発令され、県内でも「まん延防止等重点措置」が適用されるなど、私たちの生活様式も大きく変わることとなりました。町内でも感染防止の観点から、各種イベントや集落活動においても軒並み中止や延期を余儀なくされ、人々との交流が大幅に減少するなど我慢の1年であったと感じております。本年についても、3回目のワクチン接種が予定されており、第6波を未然に防ぐよう今後とも慎重な対応をお願いいたします。

国内では、衆議院解散総選挙が行われ自由民主党が絶対安定多数を獲得し、第2次岸田内閣が成長と分配の好循環の実現に向けた「新しい資本主義」を掲げ発足しました。また、地球の気候変動対策を話し合う国際会議（COP26）において、日本として「2030年

度には2013年度比で46%のCO₂削減、さらに50%削減の高みを目指す」との目標が示され、今後、カーボンニュートラルの達成へ向けた取組が加速していくものと考えております。更には、オリンピック・パラリンピックが57年ぶりに東京で開催され、緊急事態宣言下での開催に様々な議論がなされましたが、各国選手の競い合う姿は、コロナ禍で閉塞感が漂う中であって、多くの方々に感動と勇気を与えてくれたものと感じております。

当町においては、近年にない豪雪となり2月中旬には積雪が3mを超えるなど町民生活に多大な影響を与えました。また、ティーエヌアイ工業(株)会津工場が3月末をもって操業を停止し、約30年にわたり町内の雇用を支えていただいた企業の撤退は非常に残念な出来事でありました。一方で、12月には只見高等学校が春の選抜高校野球大会・21世紀枠で、東北地区の候補校に選出されたという明るい知らせがあり、今月行われる選考委員会において甲子園行きの朗報が届くことを心から願っております。

今年も、待望のJRR只見線の全線再開通が予定されております。国・県・沿線自治体をはじめ多くの方々のお力添えを賜り、ようやく出発点が見えてきたところであります。今後は、今以上に町議会をはじめ町当局並びに

町民各位が一丸となり、関係市町村とともに力を合わせ、活性化に向け取組んでいかなければならないものと考えております。

町議会としましては、コロナ禍により世界が大きく変わろうとしている状況の中、私たち議会も変わっていかねばならないと考えております。時代とともに変化する住民ニーズを的確に把握し、地域の課題を掘り下げ、その山積する課題解決のため、通年議会制度をフルに活用し取り組んで参ります。また、町政の監視役としての議会の役割を十分に果たすため、議会報告会などを通じて皆さま方の声をお聞きし、より身近で開かれた議会を目指すとともに、集落の活性化や福祉の向上など、皆さま方の付託に応えられるよう、全力で、その責任を果たしてまいりますので、皆様には、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願い、新しい年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた年となりますよう心から祈念申し上げます。まして、新年の挨拶といたします。

